

2. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率(%)	年度	
林業・木材産業の生産基盤強化	高性能林業機械等の整備	素材生産量(目標値)	205	千m3	R5(2023)	279	千m3	R10(2028)				
			5.20	m3/人・日	R5(2023)	6.24	m3/人・日	R10(2028)				
	特用林産振興施設等の整備	なめこ(菌床)の生産量(増加率)	5,048	t	R5(2023)	5,235	t	R10(2028)				
森林資源の保護	森林環境保全の推進	保安林を有する旧市町村数に対する森林保全推進員の割合	89	%	R5(2023)	100	%	R6(2024)	89	89%	R6(2024)	R7.3.31 県治山課調べ
林業の多様な担い手の育成	人材の確保・育成・定着	素材生産量(目標値)	205	千m3	R5(2023)	220	千m3	R6(2024)	258.5	118%	R6(2024)	R7.8.8 県林政課調べ
		新規就業者数(目標値)	40	人/年	R5(2023)	50	人/年	R6(2024)	46	92%	R6(2024)	R7.3.31 県林政課調べ
	労働安全の確保	災害発生件数(減少率)	14	件	R5(2023)	13(-7.14%)	件	R6(2024)	9(-35.71%)	144%	R6(2024)	R7.6.16 新潟労働局調べ

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林資源の保護	・森林を有する市町村に森林保全推進員を配備したことにより、違法行為に対する監視体制の整備・強化を図ることができた。	・森林保全推進員の高齢化及び主に依頼している森林組合における人員不足により、引退する推進員の後継者の確保に留まり、人数の増加に至らなかった。人材の確保が課題であるため、森林組合の現職以外からも人材が確保できるよう、市町村や森林組合等との連携強化等に努める。
林業の多様な担い手の育成(素材生産量)	林業事業体の素材生産が間伐から生産性の高い主伐への転換が進んだことや、円安や中国の旺盛な需要を背景とした輸出用材の需要増、新規バイオマス発電所の稼働に向けた需要増により増産を図った結果、目標値を達成した。	素材生産の拡大により林業関係者の所得向上につなげることが必要であるため、引き続き、間伐から主伐・再造林への転換や集約化等による生産性の向上、川上から川下の事業者の関係構築を支援する。
林業の多様な担い手の育成(新規就業者数)	求職者に対して、林業のやりがいや魅力を十分に伝えきれていないことや、他産業に比べて賃金や休日等の雇用条件が整っていない事業体が多いことなどから、目標を達成することができなかった。	新規就業者の確保に向けて、林業が果たす役割や魅力を伝えるとともに、就業者の着実な定着を図るため、雇用環境の改善等に取り組む必要がある。 そのため、社会人や高校・専門学校の学生等を対象にした、林業の理解促進や事業体とのマッチング、多様な媒体を通じた情報発信など、就業に向けた取組を一層推進する。 また、森林施業プランナーによる施業集約化や、他事業体との業務連携による安定的な事業量の確保を促進することで、林業事業体の経営基盤の強化と雇用環境の改善を一体的に進める。
林業の多様な担い手の育成(災害発生件数)	素材生産量の拡大に伴い、伐木作業中の事故は依然として発生しているが、安全巡回指導等の取組により目標値を達成できた。	安全な作業を実施し、指導できる現場技術者を育てることが必要であるため、研修や安全巡回指導等を強化し、引き続き労働災害防止に向けた意識啓発に取り組む。